

# 地方の学生 都心で支援

交通費がかさむ、情報が少ない、頼れる人もいない……。地方の大学生が東京で就職活動をする場合、抱える悩みは山ほどある。そんな現状を少しでも手助けしたいと都内のNPOが動き出した。都内で合宿を開いて就職活動のいろはを伝授。面接の合間に立ち寄れるサポートオフィスも都心に開設した。

(高橋末菜)

昨年暮れ、都内で「第1回合同就職準備合宿 in TOKYO」が開かれた。集まったのは宮城大、鳥根県立大など6大学の約40人。来春卒業予定の国立大生に限り、参加費は1万500円(交通費別)。

自己分析の手法や筆記模擬試験、試験対策の講義、自己PRの書き方、マナー実習……。2泊3日の日程で、深夜までびっしりと講義が詰まる。

「インターネットでの広告が必要」「値段を上げると顧客離れにつながる」。学生たちは、「日焼けローションの販売企画会議」と題する集団討論に挑戦。5人ずつ前に出て討論する

25分間、周りで学生たちが見守った。

「話がそれた時に、本筋に戻せる人は高く評価される」「まず結論。その後に理由を」。講師の指導に、学生たちはメモを取った。

宮城大3年の早川陽子さん(21)は、就職活動のため2月から友人と都内にアパートを借りる。「地元にいると、企業セミナーに参加しにくいし、東京の大手企業にOBやOGは少なく、情報が入ってこない」

主催したのは、NPO法人日本人材教育協会(東京都)。厚生労働省の若者向け教育プログラムの教材や試験を作成、講師

## 合宿で講義・マナー実習



合宿ではマナー講座も。2人1組で自己紹介。お辞儀の仕方も学んだ=東京都渋谷区で

を派遣する。大学や専門学校で就職指導をする講師ら約30人がメンバーだ。

海外留学する学生の就職支援に携わってきた協会役員らが中心となり、今年度から地方大学生に限っている。

昨年9月、秋葉原にほど近いビルの一室に「東京就活サポートオフィス」を開いた。講師1人が常駐し、エントリーシート

## オフィス開設、面接助言や宿泊案内も

の添削や面接の相談に無料での。約30人分のスペースに、パソコンが3台。筆記試験の対策本もそろった。

常駐講師の平野朱織さんは「模擬面接、身だしなみの助言から、電車の乗り方や銭湯、安い宿泊施設の案内まで応じます」。

協会の職員らは各地の大学を回り、サポートオフィスの運営費の一部を負担してもらえよう協力を求めている。

協会理事として地方大学の学生支援センターキャリア支援室・助教役に就任した坂入信也さんは「東京オフィスを持つ地方大学はあるが、常駐職員がないなど、活用されているとは言い難い。指導も受けられ、情報収集もできるので、ぜひ利用して」と呼びかける。

鳥根県立大3年の小椋喜行さん(20)は1月、企業説明会に出るため上京し、サポートオフィスに立ち寄った。

「東京に親類も友人もないから、面接の前に『頑張って』と言ってもらえるだけでもうれしい」